

SHOW HEY シネマルーム

★★★

ウォーナーの謎のリスト

2016年/日本映画
配給：シネマボックス/116分

2018 (平成30) 年6月10日鑑賞

自宅・試写DVD鑑賞

Data

監督・編集：金高謙二

出演：志賀廣太郎/Jemes K
onicek/田邊邦夫/
市川和也/伊藤圭太

■■■ショートコメント■■■

◆第二次世界大戦の舞台ウラ。そこでは戦争回避に向けた近衛文麿首相の涙ぐましい努力や、真珠湾攻撃前の宣戦布告にこだわった山本五十六連合艦隊司令長官の姿等が知られているが、本作で私をはじめで知ったのが、「ウォーナー・リスト」。これは、米国人美術家のラングドン・ウォーナーが作成した、日本において空爆すべきでない151ヶ所のリストのことだ。

◆勝・西郷会談によって江戸城の無血開城を実現させて、江戸の街を戦火から救ったのと同じように、『パリよ、永遠に』（14年）（『シネマ35』273頁）は、ドリンク VS コルティッツ会談によって今日の美しい都パリが残ったことを教えてくれた。しかして、本作が描く「ウォーナー・リスト」は、アメリカの日本空襲において、いかなる役割を？

◆皇居や御所はもちろん、京都や奈良の街は戦災を免れたと言われているが、その真意は？また、その根拠は？他方、本作を観て私をはじめで東京神田神保町の古本屋街が空襲を免れた理由を知ることができたが、なるほど、なるほど……。しかし、原爆投下の目標を巡って京都が外されたのはいいいが、その代わりに（？）広島が選ばれたことを考えると、日本人なら誰でもいささか複雑な気持ちに……。

◆本作を観れば、「ウォーナー・リスト」や、米国人美術研究家のラングドン・ウォーナーという人物が歴史的に果たした役割は明らかだが、ドキュメンタリー映画としての本作はまるで教科書のような感じで、映画としての娯楽性は薄い。これはコトの本質上やむをえないのかもしれないが、本作に登場する「神保町に残る戦争秘話」は興味深い。

したがって、私としてはこれをベースに物語風のエンタメ作品を作ってもらいたいもの

だ。この「秘話」をベースに登場人物を少し増やし、物語を少し膨らませて脚本を書けば、いいエンタメ作品ができると思うのだが・・・。

2018（平成30）年6月13日記